

[036]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/4751314>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 36, pp.1-, 2021-09. The Kyushu University Museum
バージョン：
権利関係：

NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

No.
36
September, 2021

フジギャラリー学内限定オープン

昨年度オープンしたフジギャラリーは新型コロナウイルス感染症拡大のため、本年7月に学内限定でギャラリー1のみのプレオープンを行い、いよいよ秋からは学内限定でギャラリー2にて「THE NICHU」と題してキャンパスと街作りについての参加型の展示を行います。一方、箱崎サテライトの旧工学部本館に拠点を置く総合研究博物館については、博物館の基本的機能・コンセプトやその使用計画に関する将来構想の策定を、全学のワーキンググループで進められています。どちらもご期待ください。

総合研究博物館第9代館長 宮本 一夫



九大博所属資料公開へ

データベースのリニューアル公開

伊藤 泰弘 開示研究系・助教



今年2021年1月に総合研究博物館データベースのウェブサイトのリニューアル公開いたしました。もともと当館の標本資料データベースは2005年から公開していたのですが、2014年から休止しておりました。このたびは装いも新たにデータベースを再開することになりました。

ウェブサイトは、まず博物館データベース全体のトップページがあり、つぎに研究分野ごとのホームページをもうけています。現在の分野区分は、植物・藻類、昆虫、魚類、その他の動物、古生物、鉱物・岩石、古人骨、考古遺物、民俗資料、工学、音源・映像、記録資料、什器、図書、3D、展示・催事です。分野ごとのホームページからは、各コレクションのデータベースのページにリンクするようになっています。コレクションごとには、概要、標本リスト、画像ギャラリー、詳細検索のページがあり、そこから個々の標本資料の詳細情報ページにリンクするという構成になっています。データベースはコレクションごとに作成していますが、各コレクションを横断した検索もできるようになっています。現在の収録データ件数は

約22万件。このうち約2万件に画像データがあり、テキスト情報だけでなく、画像でも標本資料を確認することができます。

今回公開したデータベースは、まだまだ完全なものではありません。コレクションは有るけれどデータベースはまだ出来ていなかったり、画像も有ったり無かったりして見て目は虫食い状態です。しかし、こういったものは、完璧なものができるのを待っていては、いつまでたっても公開することができません。ならば、とにかく不完全であっても公開できるものから、どんどん公開していこうという方針で、後からデータを追加・修正し、アップデートしていくことにしました。今後は標本資料情報のデジタル化を推進・充実し、コレクションのテキスト情報はもとより、2D、3D画像など順次公開していきたいと思えます。乞うご期待です。

① 総合研究博物館データベースのトップページ

② 植物・藻類分野のホームページ

COLUMN①



『角川の集める図鑑GET! 昆虫』を出版

丸山 宗利 総監修 / KADOKAWA より 2021年5月28日発行

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

この春に子供向けの新しい図鑑が出版されました。このような学習図鑑は大手3社が大部分のシェアを占めていましたが、そこにKADOKAWAが新規参入することになります。そして、新参だからこそその工夫があちこちにちり

ばめられ、すばらしい図鑑が出来上がりました。今回、私が撮影から執筆、監修までのすべてをつとめました。睡眠時間を削っての大仕事でしたが、コロナ禍の在宅だからこそできたともいえるかもしれません。本書には当

館の標本が多数使用され、私の研究内容も紹介されています。本書を通じて、読者の子供たちに、昆虫について多くのことを知ってもらおうと同時に、標本の美しさや研究の楽しさも知ってもらえればと願っています。

着任のご挨拶と研究紹介

就任のご挨拶

宮本 一夫 九州大学総合研究博物館第9代館長



箱崎キャンパスから伊都キャンパスへの移転が2018年9月末に終了した。この時点で、売却予定であった箱崎キャンパス保存地区の旧工学部本館や赤煉瓦本部庁舎などに残っていた総合研究博物館、大学文書館、埋蔵文化財調査室は、行き場を失っていた。2020年6月～8月にかけて、当時、大学文書館長と埋蔵文化財室長を担当していた私と、緒方一夫前総合研究博物館長らで、箱崎キャンパス保存地区でのこれら3部局がどのように今後活動し、組織的にどのように維持・運営していくかの話し合いを行っていた。同年9月には、箱崎キャンパス保存地区の九州大学での所有が認められ、箱崎サテライトとして活用されることが決定された。ここにおいて総合研究博物館の落ち着き先がやっと決まったのである。こうした経緯を知っている私が、第8代緒方一夫館長の後任として、総合研究博物館、大学文書館、埋蔵文化財調査室のすべてに係わった経験を以て、箱崎サテライトに拠点を置く総合研究博物館のより良い活動方法を模索することとなった。そして、私の館長在任期間は、総合研究博物館が、これからますます羽ばたいていくための助走を行うべく期間として位置づけ、尽力したいと考えている。現在、総合研究博物館の将来構想に係わる検討が全学において進められており、これにより総合研究博物館のより良い未来の礎が作られる予定である。

私は、東アジア各地の農耕の始まりから古代国家の成



立までの人類史の研究を行っている。フィールド調査を主とし、モンゴル、中国、ロシア極東、日本で数々の発掘調査を実施し、韓国・ベトナムや欧米で資料調査を実施してきた。これらの調査成果をまとめることにより、東アジアにおける農耕の始まりからその拡散過程や牧畜社会の成立過程を探っている。さらには、その後に生まれる青銅器文化や初期鉄器文化の成り立ちを東アジア全体から俯瞰し、古代国家成立過程の比較研究を行っている。このようなフィールド調査や国際共同研究の経験は、総合研究博物館の運営や活動に寄与できるであろう。

総合研究博物館が、九州大学の最新の学術成果を公開するとともに、元寇防塁跡から近代保存建物に至る箱崎サテライトの歴史文化的な魅力を学内外に伝え、学生・教職員や卒業生、あるいは市民の集いの場となることを願っている。



- ① 筆者近影
- ② ロシア極東 1999 ザイサノフカ7遺跡
- ③ モンゴル 2015 ヒヤウル・ヒャラーチ遺跡
- ④ 中国四川チベット自治州 2008 宴爾龍遺跡



着任のご挨拶と研究紹介

江戸時代の異文化交流

赤司 妙 技術補佐員



2021年2月より、技術補佐員として勤務しています。専門は近世日欧交流史です。江戸時代後期に活躍した長崎の絵師、川原慶賀を主なテーマとしています。川原慶賀、通称登与助は、出島に勤務するオランダ商館員の求めに応じて、日本の動植物や風俗、風景を描き販売しました。オランダ商館員は慶賀へ「日本」に関する絵を注文しましたが、それは慶賀にとって「日本」とは何であるのか、自覚する機会になったのではないかと考えられます。オランダ商館員という「外」からの視線を通して慶賀が描いた「日本」は、西欧へと持ち帰られ、解釈を加えて出版されました。それらの著作は、日本が外国との交流を制限していたため日本についての情報が十分ではなかった西欧において、「日本像」がつくられる一助となったと推測されます。

私の研究の目的はオランダ商館員がどういった背景を持ち、慶賀に何を注文し、慶賀がどのように応えたのか、そしてそれらの絵がどのように活用され、西欧の「日本像」の形成にどういった影響を与えたのか、明らかにすることです。

また、自分の研究と関連して、コレクションの形成についても関心を持っています。現在博物館に寄贈されたコレクションのうち、書籍類の整理を行っています。物が蒐集され、博物館へと保管、整理されていく過程を見ることができ、大変勉強になっています。



※川原慶賀筆『草木花実写真図譜』(国立国会図書館蔵)

着任のご挨拶と研究紹介

「発想する空間」を求めて

吉田 明世 テクニカルスタッフ



2021年4月より、テクニカルスタッフとしてフジイギャラリーに勤務しております。今日までデザインに関わる仕事に携わり、フジイギャラリーでは、暖簾や懸垂幕のデザイン、チラシなど印刷物の制作、出入り口のサイン等を手掛けています。

さて、このフジイギャラリーですが、前号でもご紹介があったように伊都にできた新しい施設です。「触発を促し発想する場」をコンセプトに、それを促す体感や体験を創り出すことを目指しています。私もデザインに関わる1人として、「発想すること」については身近に感じております。

フジイギャラリーの大きな窓に面したスペース、G1は開放的な空間で、ガラス窓から自然光が差し込みます。アイデアが浮かばない時は時折、この窓から伊都キャンパスの人の流れを眺めて一息つくと考えが整理され、作業が捗る気がしています。インテリアでは、キャンパス移転前の農学部で使用されていたハーマンミラーのイームズ アームシェルチェアを設置しており、深く座ることのできる柔らかなシルエットにより、ゆったりとした気分で休憩することができます。その他にも、歴史的木製什器をリペアしたテーブルからは木の風合いを楽しむ事ができ、打ち合わせなどの語らう場として最適です。

触発を促し、創造性を育めるような居心地の良い空間作りを目指し、フジイギャラリーの運営に尽力して参ります。



※イームズ アームシェルチェアと歴史的木製什器の書棚



フジィギャラリーの活動

暖簾マークの紹介

吉田 明世 テクニカルスタッフ

この春から進めてきたフジィギャラリー内の準備も、6月にようやくひと段落を迎えました。広々とした印象だった G1 スペースにも、歴史的什器である本棚やテーブル、椅子、受付カウンター等が設置されました。

この受付カウンターの後ろに掛かっている暖簾を、この度デザインさせて頂きました。暖簾のデザイン自体初めてで、どのようなデザインにしようか考えましたが、フジィギャラリーの名称にもなっているご寄付頂いた藤井様のお名前よりイメージを膨らませて制作致しました。

植物の「藤」と、「井」の漢字のカタチから構成し、囲み藤の中に井の字を傾けたレイアウトを家紋のように円で囲み表現しました。井の中央にある四角の余白をフジィギャラリーの建物に見立て、中央に配置することでより多くの人に集まってもらいたいという想いを込めました。

構想初期の段階から数えると、およそ20パターンほど細部を変更して微調整を行いました。テキストの入れ方、英字表記、カタカナ表記、サイズ感など、この頃には毎日のように目にしてきたため、どれがまとまりのあるレイアウトか選択に悩む日々でしたが、多くのアドバイスをいただき、無事に最終デザインを仕上げることができました。

この暖簾ですが、両面に印刷できるということもあり、表面には英字表記との組み合わせ、裏面にはカタカナ表記の縦組みで仕上げました。透け感も程よく、向こう側に人がいても分かるようになっていきます。風の流れも暖簾の揺れ具合で感じることができ、雰囲気ある空間演出の一助になればと思います。

フジィギャラリーにお越しの際には、ぜひ一度目に留めていただけると幸いです。

COLUMN②

フジィギャラリー今後の展開(1)

三島 美佐子 開示研究系・教授



この前期は大学院演習の一貫で、「フジィギャラリーでの体験創出」をテーマにワークショップを企画してもらい、ボランティアの学生モニターにも協力を得て、7月に予行演習をしました。学生企画のフレッシュさとギャラリーの雰

囲気があいまって、なかなか楽しいプログラムとなりました。実は当館はここ15年ほど、箱崎や学外でそのような参加体験型の催しを実施してきていますが、あまり知られていません(特に学内では!)。演習で学生さん達の生き

生きした様子を見ていたら、これまでのワークショップやサイエンスカフェをフジィギャラリーで再開しよう、という野望が芽生えました。今後フジィギャラリーをとおり、伊都キャンパスでも楽しい博物館体験を提供していきます。



古人骨資料での試み

総合研究博物館所蔵古人骨コレクションの3D化

米元 史織 開示研究系・助教



3Dプリンターの普及などによりなじみが増してきた3Dデータ。2013年スミソニアン博物館による3Dデータの公開を端緒に、近年、世界中の博物館や科学館で、収蔵品の3Dデータを公開する動きが広がっています。3Dデータは立体物への新しい研究や、世界各地の人々とデータを共有

することを可能にするだけでなく、経年変化による資料の劣化に対するバックアップでもありました。そして、2019年に発生したCOVID-19の猛威により世界規模での移動制限がかかったことでますます収蔵品または展示空間の3Dデータの公開の動きは加速しました。

当館でもデータベースの公開WEB展示(創設20周年記念展示『九大博20年ものがたり』)が試みられています。

その試みのうちの1つとして、私は2020年から当館所蔵



3Dプリンターの普及などによりなじみが増してきた3Dデータ。2013年スミソニアン博物館による3Dデータの公開を端緒に、近年、世界中の博物館や科学館で、収蔵品の3Dデータを公開する動きが広がっています。3Dデータは立体物への新しい研究や、世界各地の人々とデータを共有

古人骨資料を中心に3Dデータ化を進めています。九州大学総合研究博物館には縄文時代から近世江戸時代にいたるまでの遺跡から出土した古人骨が約3000体所蔵されています。当館の資料群は、医学部解剖学第二講座の金関丈夫教授による1953年山口県土井ヶ浜遺跡および佐賀県三津永田遺跡の発掘・研究に始まり、その後、同講座の永井昌文教授、比較社会文化研究院の中橋孝博名誉教授・田中良之教授が連綿と各地で発掘調査に携わり、その結果日本有数のコレクションとして形成されました。残された古人骨からより多くの情報を得、新しいことを「発見」するために、国内のみならず国外の研究者も数多く調査研究に訪れこれらの資料と

向かい合ってきました。最初の発見から70年の月日が経とうとしている今も新しい多くの研究に活用されています。また2021年7月現在



は閉館していますが、当館の古人骨開示室ではこれらの資料を用いて顔かたちの歴史の変遷への理解を深めることのできるような展示が整備されています。

実物資料を見ることができる状況は最良ですが、3Dデータを整備しておくことで研究・展示方法に広がりを持たせることができます。どのような事態においても研究と社会教育の場として機能できるようにこれからも試行錯誤していきたいです。

- ① 3Dプリンターで出力したレプリカ
- ② 古人骨開示室
- ③ 3Dスキャン作業中

COLUMN③



サイエンスゼロの話

前田 晴良 分析技術開発系・教授

人気急上昇中の井上咲楽さん(ホリプロ)が、NHK「サイエンスZERO」の化石産地ロケ中に自力で採集し、研究用に九大総博に寄贈されたアンモナイトが論文に掲載されました。約1億8千万年前の *Cleviceras* 属の化石で、

「地質学雑誌」および「豊田ホタルの里ミュージアム研究報告」にそれぞれ載っています。同時に、実物を「化石閲覧展示室」にて展示中です(写真)。井上さんご自身もツイッターで「実はわたしが見つけた大きなアンモナイトの

化石が九州大学総合研究博物館に展示してあります!」とつぶやかれ、40件のリツイートと400以上の「いいね」を集めています。

百聞は一見に如かず。COVID-19 が収まったら、ぜひ見に来て下さい。



貴重な昆虫標本の受け入れ

中條道崇収集甲虫標本の寄贈受け入れ

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

中條道崇先生(1934-2020)は九州大学農学部助教授として、主に英彦山にある附属彦山実験所で甲虫類の研究をされていました。多数の甲虫類の新種を発表し、英彦山の昆虫相を調査されるとともに、同施設で多くの研究者を受け入れ、慕われていたと聞きます。1998年に退官され、その後は福岡市内のご自宅で研究と標本の整理を継続されていましたが、2020年の4月に亡くなりました。

中條先生のご専門はとくにゴミムシダマシ科の甲虫でした。お持ちだった標本のおよそ半分は8年ほど前に農学部昆虫学教室を通じて当館で引き取り、管理をしていましたが、このたび、ご逝去にともない、2020年の7月に残りの標本のご寄贈を受けましたので、ここに報告します。

すでに当館で管理していたものを含め、主な内容は以下ようになります。

- ①中條道崇収集 日本産ゴミムシダマシ…ドイツ箱31箱
- ②中條道崇収集 国外産ゴミムシダマシ…ドイツ箱8箱
- ③中條道崇収集 国内産他の甲虫類…ドイツ箱19箱
*①~③の約半分は過去に農学部を通じて引き取ったもの。
- ④中條道夫収集 日本産甲虫類タイプ標本…ドイツ箱1箱
- ⑤中條道夫収集 国外産甲虫類タイプ標本…ドイツ箱1箱
- ⑥原図類と文献類 小型段ボール 30箱程度

標本の合計は、過去に農学部を通じて引き受けたものをふくめ、ドイツ箱で60箱、正確な数は34,448頭となりました。昆虫学の世界ではよく知られていることですが、中條先生は親子2代にわたる昆虫研究者で、ご尊父の中條道夫先生(1908-2004)も、日本の甲虫研究の黎明期から活躍され、ハムシ科やオオキノムシ科の業績で知られる高名な学者です。今回、その中條道夫先生の研究に使用されたタイプ標本が多数、当館に寄贈されたのも特筆すべき点で、じつは私たちも予想していなかったことでした。その他、中條道夫先生が論文につかわれた美しい原画もありがたい寄贈品で、いずれ展示等でお披露目できないかと考えています。また、多数の図鑑類などの書籍も頂戴しました。

当館にはほかにも多数の重要な標本がありますが、今回は多数のタイプ標本(世界的な財産ともいえる重要な標本)がこのような形で「発見」されたことから、あえてここで記録しておきたいと思います。いずれデータベース化し、多くの方に利用できる下地を作ればと思っています。

末筆ながら、貴重な資料をご寄贈くださったご遺族の皆様、そして標本の整理を中心となって行ってくくださった城戸克弥さん、今回の作業を手伝ってくださった紙谷聡志先生と松本淳和技術補佐員、過去の移管にご尽力くださった広渡俊哉先生と山口大輔技官には厚くお礼申し上げます。

- ① 桐の標本箱に整理されていた寄贈時の標本
- ② 中條道夫先生のハムシ類の細密画
- ③ ドイツ型標本箱に整理された標本



展示・講演会関係の活動状況

Activities of Exhibitions & Conferences

学外連携事業

●「福岡ミュージアムウィーク2021」

期間○令和3年5月18日(火)～30日(日)

場所○福岡県における新型コロナウイルス感染拡大にかか
る緊急事態措置等の状況を踏まえオンラインコンテ
ンツのみ実施。

当館オンラインコンテンツ：

「ぐるっと九大博旧工学部学部本館パノラマビュー」

「九大博20年ものごたり」

主催○福岡ミュージアム連絡会議

(福岡市博物館、福岡市美術館、福岡アジア美術館、
福岡県立美術館、福岡市埋蔵文化財センター、
「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、
王貞治 ベースボールミュージアム

Supported by リポビタンD、

九州大学総合研究博物館、

九州産業大学美術館、西南学院大学博物館、

三菱地所アルティウム、能古博物館、

福岡市動植物園、福岡市文学館、ハクハク、

味楽齋美術館、福岡女子大学美術館、福岡市科学館、

チームラボフォレスト福岡-SBI証券)

協力○西日本鉄道株式会社、

博多リバレインモール、博多座、

(公財)福岡市文化芸術振興財団、

よかたい図書館共同事業体

(福岡市総合図書館指定管理者)



協力

●「2021年度九州大学オープンキャンパス」

期間○令和3年7月12日(月)～8月31日(火)

場所○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から
オンライン配信型で開催。

<http://admission.kyushu-u.ac.jp/oc/>

主催○九州大学学務部入試課

●特別展「昆虫」

期間○令和3年7月17日(土)～9月20日(月)

場所○名古屋科学館

主催○名古屋科学館、読売新聞社、東海テレビ放送、
中日新聞社

特別協力○国立科学博物館

協力○九州大学総合研究博物館

●文化交流展(平常展)「海の道、アジアの路」

期間○令和3年9月14日(火)～12月23日(木)

場所○九州国立博物館

主催○九州国立博物館

協力○九州大学総合研究博物館

共催

●人社系協働研究・教育コモンズ 第10弾シンポジウム

「棚田の教え その成立基盤と持続可能性」

期間○令和3年7月31日(土)15時～18時

場所○オンライン会議形式(Zoom)で開催

※フジギャラリー

(九州大学伊都キャンパスイーストゾーン)より配信

主催○九州大学人社系協働研究、教育コモンズ

共催○九州大学総合博物館、九州大学アジア・オセアニア

研究教育機構(Q-AOS)都市クラスター

協力○九州大学附属図書館付設教材開発センター

人事往来

Personal Changes

昇任・着任

●令和3年4月1日付けで、宮本 一夫が
館長に就任しました。

●令和3年4月1日付けで、前田 晴良が
副館長に就任しました

●令和3年4月1日付けで、三島 美佐子が
教授に昇任しました。

●令和3年4月1日付けで、川崎 輝之が
専門員として着任しました。

●令和3年4月1日付けで、花屋 浩之が
専門員として着任しました。

●令和3年2月1日付けで、赤司 妙が
技術補佐員として着任しました。

●令和3年4月1日付けで、吉田 明世が
テクニカルスタッフとして着任しました。

●令和3年6月1日付けで、布川 圭子が
技術補佐員として着任しました。

●令和3年9月1日付けで、大久保 真利子が
技術補佐員として着任しました。

その他の活動状況

Others

運営委員会

令和3年2月24日(書面)

令和3年3月10日(書面)

令和3年5月14日(web)

令和3年6月25日(書面)

令和3年8月16日(書面)

令和3年9月14日(web)

博物館からの お知らせ

九州大学は1911年の九州帝国大学創立以来100余年を箱崎キャンパスと
共に歩んで来ましたが、2018年9月に伊都キャンパスへの移転が完了しま
した。九州大学総合研究博物館は、旧工学部本館、旧本部事務庁舎な
どの箱崎キャンパス跡地近代建築物活用ゾーン「箱崎サテライト」で活動
を継続しています。

▶ 総合研究博物館では、『博物館活動充実基金』として皆様からのご寄付を受け付けています。

振込用紙での手続きを希望される方

1. 当館 HP に掲載の寄附申込書(博物館活動充実基金用)にご記入ください。
2. 事前に博物館事務室までご連絡頂ければ、申込書記入内容の確認をいたします。
3. 寄附申込書原本を、博物館事務室までご郵送願います。
4. 入金依頼書をお送りいたしますので、同封の振込用紙により納入してください。
5. 入金確認後に、御礼状と「寄付金領収書」をお送りさせていただきます。寄付金領収書は税法上の優遇措置に必要ですので、
確定申告まで保管して下さい。

※当基金への寄付金は、所得税、法人税、相続税、住民税(自治体により異なります)の優遇措置をうけることができます。

❗ webでのお申込み・クレジットカードでの決済も可能になりました。詳細は当館ホームページもご参照ください。

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>

九大博 充実基金



お問い合わせ先：総合研究博物館事務室 / 電話 ● 092-642-4252 / メール ● office@museum.kyushu-u.ac.jp